昭和55年7月発行　第5号

東京龍門会報

発行所
東京都品川区五反田2-21-20
株式会社　国分電機内
電　話（445）6311
東京龍門会
発行人　国分和夫

総会会場風景

会員相互の親睦と福祉増進
あわせて母校の発展に寄与

☆同窓生約一五〇名が参加☆

東京龍門会も八年目を迎えその総会が去る五月二十四日（土）に、例年の会場である三州クラブ（品川区上大崎）で、同窓生約一五〇名が参加し盛大に開催された。総会に入る前に死去された同窓生諸兄に対し追悼の意を表し黙とうを捧げ、日高正夫副会長（中昭13卒）の開会のことばで総会に入った。総会には郷里の方から佐藤八郎同窓会会長（中昭二卒）と母校の上原実学校長（中昭14卒）のご臨席をいただいた。まず国分和夫東京龍門会会長（中大14卒）のあいさつがあり引き続き来賓の佐藤八郎同窓会会長と上原実学校長、それに同窓生を代表して浜田尚友（中昭二卒）氏からそれぞれのあいさつがあり（内容は次頁参照）議事の審議に入った。

☆会費納入に各位の協力を☆

議事は昭和54年度の事業経過報告と収支決算報告が酒匂昭男幹事長（高、昭二六卒）から　監査報告が篠原肇氏（中昭22卒）からなされ、いずれも報告書通り承認された。例年のことではあるが　会費納入率が、54年度は特に低くかったので　会費納入についてもっと積極的なご協力をお願いする旨の要請があった。

続いて55年度の事業計画案と収支予算案が上程され原案通り承認された。今年度の事業計画の主な内容として、参加者に好評だった同好会の推進と会員名簿の作成準備、それに「加治木高校教育振興会」への増資寄付金集めである。

次に役員改選の議事に入り現役員でもう一期（二年間）務めてほしい旨の推薦動議がだされ、満場一致で採択され現役員が再任された。今年度から新しく副幹事長を置くことになり岩元隆氏（高昭29卒）が選任された。議事の審議もとどこおりなく終り、高野すみ子副会長（女、昭十七卒）から閉会のあいさつがありパーティに入る。午後六時頃散会した。

（役員の紹介）

会　長　国分和夫（東市来町出身）
副会長　日高正夫（蒲生町出身）
副会長　今村　彬（加治木町出身）
副会長　彦野澄子（鹿児島市出身）
幹事長　酒匂昭男（横川町出身）
副幹事長　岩本隆（溝辺町出身）

東京龍門会会長　国分和夫

本日は五十五年度の総会を開催しましたところ、はるばる郷里から佐藤八郎同窓会長、母校の上原実校長にご来会頂きまして誠にありがとうございました。また会員の皆様方にはご多忙にもかかわりませずご出席を頂き大変嬉しく思っております。特に、今年は例年になく若い方々が大勢参加されたことで、活気に溢れた総会になりました。心からお礼申し上げます。

この一年間、何か目新しい、内容のある仕事を是非実行したいと考えておりましたが、何分にも力不足のため思うような成果を挙げることができませんでした。深くお詫びいたします。

ただ、会員相互の一層の親睦を図ることを目的に、新しく囲碁と釣りの二つの会を企画いたしました。四月十九日（土）に行われた第一回の囲碁大会には二十名の参加者があり、楽しい雰囲気の中で熱戦が繰り広げられました。釣りの会は千葉県の内房で実施いたしました。なお、以前から行われているゴルフの会は本年は三回実施しています。結婚相談の分野では、花婿花嫁を求む、と呼びかけてから二年になりますが、残念ながら現在までカップルが誕生しておりません。副会長の彦野さんを中心に女性の幹事さんが誠意をもって努めていますので、遠からず誕生するものと期待しています。

さて、母校の発展と優秀な後輩の育成のために、財団法人「鹿児島県立加治木高校教育振興会」が設立され、その基金を募集していることは皆様方にはご承知の通りであります。既に有志の方々から百万円近い金が集っておりますが、東京の割当である三百五拾万円には程遠い状況です。先輩の面目にかけて是非とも責任額を果たしたいと考えております。ご出席の皆様には同期の方々を中心に同窓各位に対して、この会の趣旨をご説明頂きましてなんとか母校のため、後輩のために目的が達成できますようご協力をお願いいたします。

同窓会会長　佐藤八郎

内外共に難かしい時代に皆様元気で東京龍門会の会員として各方面でご活躍しておられます事に対して、心から敬意と謝意を表したいと思います。加治木高校の前身である加治木中学が創立されましてから丁度八十三年になりますので、四月の同窓会総会におきまして賑やかに講演等の行事が行なはれました。皆さん方の中でも母校にお帰りになってお解りと思いますが、今日お見えの上原校長先生からも報告があるかと思いますが、いろいろな点で立派な成績を挙げております。去る80周年の時は記念事業として集められました浄財により立派に完成しました庭園、それから若人の像、文学碑、学徒の碑等が建てられまして昔とはだいぶん様子が変ってきております。しかし変らないのはスタンドの楠だとか、蔵王岳の景観や龍門滝の滝の音、またしょっちゅう降っています桜島の灰といったもの、それに我々同窓生間の友情、心の交流といったようなものは全然変っておりません。特に先輩後輩という縦、或ひは横のクラス会といった縦横の連帯感と申しますか、そういうものはいつまでも続けていかなければならないものだと痛感しております。国分会長の挨拶にもありました様に　80周年の時の残金を基金にして「加治木高等学校教育振興会」というものが出来ました。それにつきまして財団法人化する為に少なくとも二千万円の基金がいるということでございます。これらの寄附に対して免税措置も大蔵省の許可を得ております。「教育振興会」はその基金によって運営されるものでございますので、折角できたものを立派に育てるために、きびしい情況下ではございますが、皆さまの出来るだけのご協力をお願いする次第でございます。東京龍門会は前会長そして現会長のご努力に依って非常に立派に運営されておられることは本当に嬉しいことでございます。どうか皆さん仲良く頑張っていただきたいと思います。ご発展をお祈りいたします。

加治木高等学校長　上原　実

今年の四月に、はからずも校長を仰せつかりました上原でございます。前任の白浜校長のように立派な識見も学識もございませんが、白浜先生の後を引継ぎながら名門加治木高校のより一層の発展向上を図りたいと思っているところでございます。私は中学の昭和14年の38回卒業で、前任の白浜校長とは中学時代の同級生でございます。高等学校には教頭時代もお世話になりました。今のところ18年間お世話になっております。またそのあとプラスαが始まるわけでございます。だからおそらく20年をこえるんじゃないかと思っています。私の力でいくばくのものが出来るかそれは疑問に思っているところですが一生懸命にやりたいと思います。この一年間は白浜校長の考えておられ

たことをそのまま引継いでいきたいと思っています。それは第一に挙げておられた事は、身体の門題であります。鍛える面と安全の面の二つを骨子にして学校運営を進めておられました。私も同感でございます。知育も大事ですが、それにもまして体育の向上をめざした教育を実践していきたいと思います。

勉強の面でございますが、大学を受験した生徒は延べにして八百名で入学した生徒は五百二十三名でございます。また運動の面では陸上に非常に優れた先生がおられまして加治木高校の陸上部門がよく新聞などで報道されています。生徒は現在約一三〇〇名おりまして、教職員は約八十七名でございます。先般県下の高校教員のバレーボール大会では本校が優勝しました。それは先生方みんなが一致協力して試合に挑んだことの成果でこのように和を保ちながら学校をやっていきたいというのが私の考えでございます。いたらない点が多々ございますが、みなさん方のご援助をいただきながら、社会に出て使える人間を育成したいと念じつつ学校教育に専念したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

同窓生代表　浜田尚友

私は昭和二年に今日出席の佐藤八郎同窓会長また前龍門会長の若松文保君そして茨城大学の名誉教授である山口君等と一緒の卒業です。13年先輩の有馬先輩と14年先輩の分田先輩がお見えになっておられますが、私らみたいに乱暴な生活をしている者には後12年いや13年と云うのはとてもとても生き抜くことは出来ないと、今から諦めておりますが今日は私が考えている事の一端を同窓生の皆さんにお話し申しあげる光栄を担うのはもうこれが最後ではないかという気持でございます。

私は商売が政治評論著述業ですから最近の世相を見るに国内外においておそらく近代文明が始まって以来の複雑微妙な情勢になっているかと思います。今明治の幕末から明治史を政治の立場で書いており昭和47年に西郷隆盛のすべてその思想と革命運動、という本を書きました。それが奇縁になって私の人生は明治維新と薩摩人であるとか、その他の人物論に明けても暮れても没頭しているわけです。最近は約8年間連続84回にわたり〃明治維新と薩摩人〃というテーマで月刊「かごしま」に駄作を発表しておりますが百回まで書き続けられたならば、最後の仕事として西郷さんや大久保さんの後に、日本のこの興隆期に中央で活躍しまた地方で活躍した薩摩人の人物論を著作にしたいと材料だけはもう既に用意しております。話は跳びますが〃戊辰の役〃というのは慶応4年、この秋に年号が改まり明治元年になった訳ですが、世界の政治家や歴史家が驚くようなやり方で流血の惨事を極めて少なくして明治維新の大改革をやりとげた時、西郷さんは数え年42才、大久保さんが39才、後で有名になりました桐野利秋の如きは31才、NHKの大河ドラマ「獅子の時代」だとか「風の隼人」だとかの内容の⅔はフィクションであります。フィクションを本物と考える人は仕方がないとしても、歴史というものはやはり事実を掘り起して見なければいけないと思うのです。官軍を事実上率いておりました西郷さんは、三月十三、十四日に芝の高輪、或ひは田町の薩摩屋敷で勝海舟と会い、十五日に予定されておりました江戸進撃の中止命令を出して四月十一日に江戸城を無血で受け取ったわけですが、この時の勝海舟は西郷さんより四つ年上の46才両雄ともに若かったわけです。西郷さんと勝海舟は初めて会ったというわけではなく、元治元年の七月十九日に蛤御門の戦がありましたあと、西郷さんが幕府の重臣である勝海舟に叮重な手紙を送り大阪で面会を申込んで会っております。その時に勝海舟にいきなり云ったのは「西郷さんは大変なお人だと伺っておりますがそんなに肩をいからせなくても通そうと思えば一日で通る」と云ったので、西郷さんはびっくりして「何でごわしょうか」と云ったところ勝海舟は「幕府は総て金で動くようになっている。それで武力や腕力を使ったりする必要はない。何もかも賄賂が幕府の習慣になっているのですべては金次第。そんな幕府を相手にするのは大人げない。それよりどうして印度が亡んだか、アメリカ大陸がまたお隣りの中国はどうなったかと世界列強の動きに目を向けて、貴方は島津を中心とする越前や土佐や宇和島など四、五藩連合で徳川に外交の重要性を迫り、朝延にこの事を進言しなさい」と云った。そこで西郷は初めて世界的まなこが開かれたということを「実に驚き入りたる人物に御座候、学門等の点に於ては佐久間象山に及ばないかも知れないが、現実の政治的指導者をしてはまたとなき傑物」という大久保に宛てた手紙が残っている。英、米、フランス或はロシヤなどという国々が日本を一呑みにしようとしている情勢の中で幕軍の総大将勝と官軍の総大将西郷との間には、どういう解決をすることが良いかという最大公約数はこの英雄の間で直ちに生れて来るのであります。お互尊敬し合って話をする時にどんな難門題でも解決し得るというのが、この明治維新の一

つの歴史的駒の中から私は最近学びとった事でございます。私は同窓生の中に数多くの尊敬すべき友人を持っております。卒業して53年の今日みなさんと共にささやかながら、このような一つの歴史の駒の中の人間と云うものを政治的な観点で語る機会を得ましたことを誠に光栄に存ずる次第でございます。天下の加治木高校、天下の龍門会から、何も阿呆みたいな政治家や田中角栄みたいなのが出なくても良い。真面目に裏付けされた人間の勇気と、お互いに尊敬し得る友人を持つということが大切なのではないでしょうか。そして新しい日本に対して大きく寄せられ貢献していかれることを心から切望してやみません。

同好会だより

◎ゴルフの集い

林恭雄（中大13卒）森徳治代（中大15卒）をはじめとして若い世代の方々まで約60数名の集いであった。幹事の横山享氏（高昭29卒）の熱心な働きかけにより左記のよ

● 昭和５４年度収支決算表

収入の部 科目	54年度予算	54年度決算	増減	支出の部 科目	54年度予算	54年度決算	増減
1.総会会費	550,000	430,000	△120,000	1.総会費	550,000	501,020	△ 48,980
2.年度会費	1,200,000	819,950	△380,050	2.会報関係費	510,000	153,700	△356,300
3.会費広告収入（未収入金）	150,000	40,000	△110,000	3.通信費	300,000	262,030	△ 37,970
4.本部補助金	5,000	25,000	20,000	4.会計費	300,000	142,866	△157,134
5.預金利息	5,000	10,683	5,683	5.関東鹿児島県人会広告費	0	50,000	50,000
				6.振込手数料	20,000	13,395	△ 6,605
				7.事務費	60,000	42,715	△ 17,285
6.前年度繰越金	825,213	825,213	0	8.次年度繰越金	995,213	985,120	△ 10,093
合計	2,735,213	2,150,846	△584,367	合計	2,735,213	2,150,846	△584,367

● 昭和５５度度計画案

1. ５５年度総会の開催
2. 会報（第５号）の発行
3. 第２回囲碁の集い，第２回釣りの集い，ゴルフコンペ，その他の同好会の企画と実施
4. 総会欠席者に対する総会概要と年会費払込方の通報
5. 会員名簿作成準備
6. 財団法人「鹿児島県立加治木高等学校教育振興会」の基本財産の増資寄付金集め

● 昭和５５年度収支予算案

収入の部 科目	54年度決算	55年度予算	摘要	支出の部 科目	54年度決算	55年度予算	摘要
1.総会費	430,000	550,000		1.総会費	501,020	550,000	
2.年度会費	819,950	1,200,000		2.会報関係費	153,700	200,000	
3.会報広告収入（未収入金）	40,000	80,000		3.通信費	262,030	400,000	
				4.会議費	142,866	200,000	
4.本部補助費	25,000	5,000		5.関東鹿児島県人会広告費	50,000	50,000	
5.予金利息	10,683	11,000					
				6.振込手数料	13,395	25,000	
				7.事務費	42,715	150,000	
				8.新名簿作成積立金	0	600,000	
				9.予備費	0	100,000	
6.前年度繰越金	825,213	985,120		10.次年度繰越金	985,120	556,120	
合計	2,150,846	2,831,120		合計	2,150,846	2,831,120	

うに3回実施された。
6・30多摩カントリー、9・6レインボーカントリークラブ、11・6府中カントリークラブ

◎釣りの集い

釣りの同好会では、去る4月26日千葉県の房総半島も館山に近い内房の大貫で、メバル釣りを楽しんだ。仕事やその他の都合でやむなく参加を中止された方々が続出し、参加者は8名と少人数ではあったが、お互い和気あいあいといった一日であった。25日の夕方に前もって野添氏（高2期）の世話で予約されていた釣り宿に全員集合、千葉県在住の同窓生満丸剛（高1期）隅元信治（高1期）東脇正義（高1期）氏ら3名もかけつけてこられ、釣り同好会の大漁あらしめる前夜祭に参加、賑賑しい前夜祭となった。さすが魚の宝庫地帯だけのことはあって、パック詰の魚とは鮮度が違う幾種類もの魚料理を満喫しながらそのうえ純情素朴なオネーチャン（？）のお酌ときたもんだから酒も進み、皆さん海釣りより一足先に陸釣りと相成りその夜はバタンキュー。翌朝七時には寝ぼけ眼の面々は朝の潮風を真に受けて釣り舟で沖へ出た。東京湾観音という名所近くの沖合いで目指すメバル釣りの最初の糸をたらす。糸をあげたりさげたりサッパリ音沙汰なし、舟頭さんの経験と勘で釣り舟は幾度か、釣り場所を変えてはみたもののダメ。誰れからともなくやっぱり海釣りより陸釣りの方が良かったみたいだナーと諦めにも似た溜め息と笑いが出る次末。何事も腹を据えてからということなのか、昼の腹ごしらえをしたころからメバルが釣れだした。メバルの釣れる日は一人で20匹近くは釣るのだそうだが、この日はメバルの方で機嫌でも悪かったのか、我々の腕の未熟さなのか、それでも陸にあがるまでみんなで釣りあげたメバルは35匹、あまり威張れたことではないがフグを入れると70匹ほど釣った。たいしたものである。大漁を待つ家族へも、これでどうにか顔が立つわいといった表情で舟を降りた。釣られたメバルには悪いが、すっかり我々を一日楽しませてくれた。その夜の我が家はメバルの煮付けであった。

◎囲碁の集い

4月19日（土）国分電機㈱の会議室にて、懇親囲碁の集いが行なわれた。参加者は大正14年卒の大先輩から　昭和31年卒者に至る先輩後輩の囲碁同好の面々約20名が参加した。有段者（A組）と一級以下（B組）のグループに分かれそれぞれに白熱した囲碁大会となり、結果は下の通りであった。A組では大追俊正氏（高8期・初段）がB組で吉嶺達氏（中42期・4級）が優勝され　国分会長より賞状と記念の盾が送られた。熱戦後、焼酎をかたむけながらの囲碁談義は懇親にふさわしい同好会の集いで、お互い次回の必勝を胸に散会した。

東京龍門会第一回懇親囲碁大会

昭和五十五年四月十九日

			国分	長野	柳	井上	朝倉	吉満	立山	近藤	大迫（段一位）	松下	後藤		別府	松元	泊	馬場先	吉嶺（級一位）	重森	今村
	A組有段者 B組一級以下 互先 先番 五目半コミ出シ																				
T14	国分	六段		○				×	×		×										
S30	長野	六段格	×			×	×				○										
S15	柳	三段					×			○	○										○
S26	井上	三段		○				×				×	○								
国	朝倉	三段格		○	○				×				×								
S13	吉満	二段	○			○			×			×									
S7	立山	二段	○				○	○		○							○				
国	近藤	二段格			×				×				×							×	○
S31	大迫	初段	○	×	×							×									
S25	松下	初段				○		○			○		○								
S29	後藤	初段				×	○			○		×									
国			3/1	3/1	1/3	2/2	2/2	2/2	0/4	3/1	3/1	0/4	2/2		3/2	1/4	2/3	1/2	4/ｼﾞ	2/3	4/ｼﾞ
S13	別府	二級														○	×	×	○	×	
S20	松元	二級													×		○	○		○	○
S3	泊	四級										×			○	×			○	○	○
国	馬場先	五級													○	×			○		
S18	吉嶺	三級													×		×	×		×	D
S28	重森	三級								○			○		○	×	×		○		
S25	今村	八級			×					×			×			×	×		D		

先輩後輩入り混っての合唱でゴザンス。歌も一緒に聞けるような写真だったらとお思いでしょうが、歌が聞こえないからこの人達サマになっているのでゴザンス。スミマセン!!

○パーティーから・・・・・

子供さんと一緒に、また孫に手をひかれてというなごやかな総会に、という願いが実現来年の総会にはあなたも是非どうぞ。イージャナイ!!

校長先生はコワイお方というイメージを、女性はやんわりと取り除いてくれる。オトコじゃコゲナワケニワイキモハン。ジクナコツデゴワス。ハイ!!

おいしそうなご馳走が目の前をチラチラしても、サット手を出さないところが薩摩オゴジョのヨカトコイ。若い女性よ見習いなさい　ナンチャッテ!!

○パーティーから・・・・

〃ブス女房まだあきもせずブスを生み〃どこかの週間誌の記事を思い出し、意味もわからず引用させてもらったことをお詫します。ナヌ!!

女性の手拍子にすぐノルのが男性、いくつになってもその本性は変りませんナ、バアーさんの入歯で噛みつかれなければヨカドン。　シツレイ!!

ミニ通信

○二月二十三日に八十九回目の誕生日を迎えました。明治三十九年四月加治木中学校に二番の成績で合格、各学年共一位で過し、明治四十四年卒後熊本五高(旧制)を経て京大医学部卒、医師生活五十年その内三十八年間は前橋日赤病院長として勤務

(中・明四十四卒　久保園　次郎)

○親友だった海軍の前田精君が逝去し、戦前若手代議士で活躍した原口純充君が他界され、淋しかコツですが、同期の各位まだ若いつもりで大いにキバイモンソ。

(中・大四卒　宇都宮直賢)

○画壇で絵画を描いています。稚早は〃千里〃です。大正六年頃の図画教師山岸先生がつけてくれた号です。国語の山田直氾先生などと俳句の集いをもっていたしたので。(中・大九卒　豊　重一)

○船医として乗船中のところ昨年六月上旬下船直後駅で転倒、左下肢(外側)を強打、完治するに至らず、目下湘南赤十字血液センター(平塚市)に一週四～五回勤務中。再び乗船希望なるも家庭の事情もあり家族の反対で実現困難の見通しです。(中・大十三卒　土屋安佳)

○毎回龍門会には出席していましたが今回は残念ながら出席出来ません。会長はじめ幹事の方々のご苦労に感謝いたします。

(中・大十三卒　漆間光治)

○今年の六月で満七十一才になります。四十七年夏東京の久保書店から「西郷隆盛のすべて＝その思想と革命行動」を執筆依頼を受け、以来すっかり西郷さんに打ち込んでいますこの西郷さんを中心に月刊「かごしま」誌に連載満七ケ年余り「明治維新と薩摩人」の研究執筆を続けています。今八十余回ですが百回で一先づ完結予定です。その際は上、中、下の単行本として刊行の予定です。次は西郷・大久保両雄後の「かごしま」人物誌執筆を目下準備中です。

(中・昭二卒　濱田尚友)

○古希はすぎもしたが元気ごあんど昨年はカナダ、アメリカなど観光してきました。また去る四月十九日開催されました同好会の囲碁会に参加し、私なりにザル碁で楽しめるとともに顔みしりもできて非常に愉快でした。

(中・昭三卒　泊正徳)

○卒業して五十有余年、月日の経つのが早いのに今更ながら驚いています。学生時代お世話になった体操のライオン先生、漢文の亀先生、植物の小田原先生、校長の日高先生そして特にお世話になった鵜川先生など皆故人となられて寂しいです。(中・昭三卒　荒瀬侃)

○昨年九月の連休に龍門の龍つぼ近くの旅館に約五十名が参加し、同期(中二八期蔵王会)の卒業五十周年を祝いました。五十年振りに会った友もあり今浦島の思いがしました。在京の同期は十一名中、小川、岸野、荒巻、法元、安田の五名が参加し、大いに懐旧談に花を咲かせることでした。

(中・昭四卒　安田清廣)

○加中卒以来五十年を経ようとしています。省るみるに当時は不景気、就職難の時に上京、戦争、そして終戦、高度経済成長から安定成長の時代へとそのうつり変るさまは夢のように早いものです。健康に留意しますます頑張りたいと思っています。(中・昭五卒　森功実)

○終戦後出版改造社を皮切りに、良書普及をライフワークに三十五年、最後に平凡社を退社して生き甲斐を得るべく独立自営に移りました。図書卸しのビジネスと「文化とコミュニティ」をテーマに会員制パピルスクラブを併行して運営しています。よろしくご教導ご鞭撻の程お願いします。

(中・昭十六卒　池上徹(久晃))

○加治木の自宅跡もゴルフ場と化し故郷が遠く感じられる今日この頃です。龍門会の盛会を祈ります。

(高・昭二十九卒　猪目寛)

○ほんのこの前加治木高校で勉強したばかりのような気がしますがもう家の子供達がいよいよ受験期に入っています。仕事の方は目下オーストラリアのアルミ製錬事業に資本参加した関係で、渡豪したり英語のつき会いに明けくれています。(高・昭二十九卒　西山知弘)

○毎回龍門会には欠席ばかりで申し訳ないと思っています。教員生活二十年、いつまでも新卒同様目まぐるしい毎日です。中学生相手で時の流れに従って生徒たちの考えや様子も変わり、その対応にも新風を吹き込まねば、とり残されそうです。

(高・昭三十一卒　堀之内享)

○同窓会の囲碁大会では大変お世話になり、先輩の皆さんと楽しいひと時を過させてもらいました。

(高・昭三十一卒　大迫俊正)

○五十五年四月一日付けで鹿児島女子大学助教授に任ぜられ、二十年ぶりに帰郷いたしました。在京中は東京龍門会の皆様にいろいろ助けられ励まされたことを今しみじみと感謝しています。ふるさとの大自然の下父祖の地で頑張りたいと思っています。

(高・昭三十三卒　二見剛史)

○今年の正月に帰郷(八年振り)しましたが、母校を始め街の変り方と桜島と錦江湾の美しいのに久し振りにうっとりしました。やっぱり我が故郷です。

(高・昭三十三卒　郡山康博)

○同窓生との交流もほとんどありませんので、案内状で同窓生を懐しみ母校を思い出すよすがになっております。その内是非出席したいと思っております。

(高・昭三十七卒　米山滋子)

○札幌に転勤し二年目を迎え、寒い冬を二回過しました。まさか南国から北国へ来て仕事をするとは思いもしませんでした。元気で頑張っています。

(高・昭三十九卒　内村勝)

○はじめて積雪三メートルという雪国新潟で冬を過しました。五回も屋根の雪おろしをして雪の厳しさが身にしみました。改めて南国鹿児島の恵まれた気候のありがたさがわかりました。

(高・昭四十六卒　橋口恒子)

編集後記

△総会後のパーティーに日当山焼酎㈱からアサヒ焼酎が寄贈された。あの独特なカライモの香りには、ふるさとを偲ばせるものがある。△イモの臭いがイヤだという人もいる。そんな人は焼酎を牛乳で割るとよい。牛乳が臭いを吸収するのかそれほど気にならなくなる。△そのうえ口当りが良くなるから下戸の人でもいける。だからつい飲み過ぎがちになる。要注意。△そのうえ牛乳中の栄養分も一緒に取ることになるから、ヘタな摘み物などなくてもよい。△只飲みのお礼にPRするんじゃないが、アサヒを飲んで今年もイツペコツペ　キバイモンソヤ　みなさんおげんきで

(堀中)